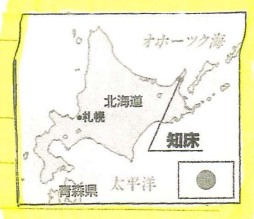




Date

<アイヌ民族が残った地>

秘境「知床半島」は何故世界自然遺産なのだろうか!



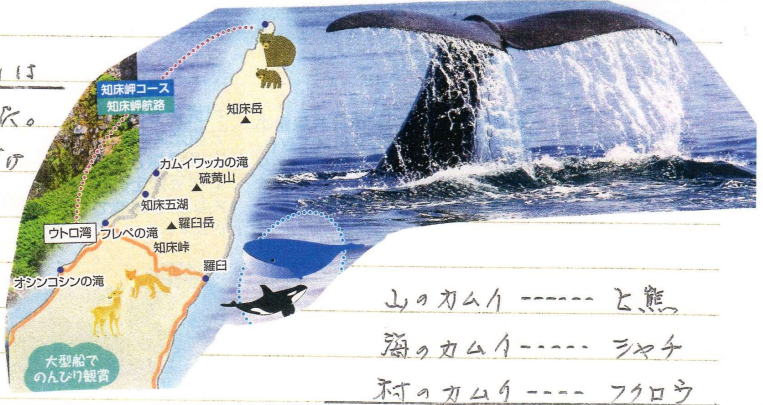
知床半島は北半球において流氷が接岸する南限の地域です。
この流氷の影響を受け、海と陸の主龍系の豊かなつながりが高く評価されて、
世界自然遺産に登録されました。(2005年7月ユネスコの世界自然遺産リストに登録)

知床半島の地形とアイヌとアイヌ民族

知床半島は長さ約70km、幅は基部で約25kmの細長い半島です。
半島の主峰である羅臼岳の山頂からは、両側の海からそそり立つように1,200~1,600mの急峻な山がー列に連なっている奇麗な景観を望むことができます。

知床連山と呼ばれるこれらの山々は、火山活動によって形成されたものです。
「知床」とは、北方領土の原住民の言葉であるアイヌ語で「地の果」に近い意味を持つ地名です。

アイヌ民族の生活の地でもあり、原住民は自然と共に生き、自然と大切に生きてきた。動物・魚・植物など、必要を量だけしか採取せず、命のつながりを大切に共に生きています。



山のカムイ ----- と熊
海のカムイ ----- シヤチ
村のカムイ ----- フクロウ

アイヌ民族の信仰では、この世のあらゆるものに「魂」が宿っていると考えられています。
今でも、動物や植物など人間に自然の恵みを受けているもの、火や水、生活用具など暮らしに欠かせないもの、気候など人間の力が及ばないものを「カムイ」として敬っています。
従って秘境「知床半島」の大自然はアイヌ民族が大切に守り育ててくれた秘境と言えます。

豊かな海で採り返される食物連鎖 流氷の訪らす大いなる恵み。

厳冬シベリヤの大地よりオホーツク海へと、流れ込む「アムール川」の淡水が海の塩分を薄め多くの流氷が発生し南下します。

この流氷は、知床半島とカムチャツカ列島(千島列島)とを結ぶ領域で氷の橋を築くとされ、知床半島に一部着氷する。

動をよめ

流氷は、春になると知床周辺でとけて栄養塩を供給する。塩分の中を溶け込んでいた植物プランクトンが増え、アサ(小エビ)が発生します。

Date

No.

増殖したプランクトンを食べる小魚^{シロギ}や甲殻類、貝類と大型回遊魚(クジラ、アザラジ)などの海生哺乳類が捕る。 かくして知床の海は宝庫となっています。

川、サケやマスは河川をさかのぼりヒグマやキタキツネの食糧となり、食べ残した残骸が野や林の中放棄され、腐食しています。

しかし、栄養分が地下に染み込み、川の水に溶け込み、まじりかばかりサケやマスの卵からかえった幼魚のエサとなり成長を助け豊かな食物連鎖を続けます。

大自然の連鎖や循環には無駄なものはいりません。

シマキに襲われて、死んだクジラの残骸は、今はヒグマやキタキツネのエサとなっています。昔はアイヌ民族の貴重な食料でした。



山のカメラ ヒグマ

狩猟文化のお祭り、アイムの「イヨマンテ」の祭り

熊の子供を捕えてきて丁度育てます。丁度どの程度かというところ、それは人間の子供を育てるのと同じように家の中で育てるほどの丁度です。食べ残したものを与えます。

系熊が飼育されるとなるとは、人間の乳を与えて育てることもあつたといひます。そうやって一年から二年、大切に育てば熊は、最後に集落の人全員で殺してその肉を食べます。

アイムの人達にとっては、動物というよりは、神様が人間に与えてくれた贈り物なのです。

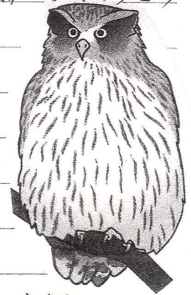
だから、いつかお返ししている贈り物を、今度は人間に返すのが大切にして、大きくて、神様の世界にお返しする。そういう考えです。(意味は異なりますが自然の連鎖を感じます)

村のカメラ シマキ

現代を生きる私達がなぜ秘境「知床半島」にあるのかをどう思いますか？

私見ですが！

経済や効率、限度なき欲望の追求に四苦八苦する時代において、自然保護や地球に住む動物の一員として、環境破壊を食い止める以上進めざるを得ません。動物達が語りかけています。知床はそんな所です。



海を汚染し、大気中にCO2をばら撒き、海の魚を採り尽し、地球資源使った類、「知床半島」へ旅行しよう？ 残りが忘れてしまった「まき」が蒙るかも知れません。

— 以上 —